

令和5年第2回 安全対策連絡協議会

●開催日時

令和5年6月29日(木)午後3時から1時間

●安全対策講話

渡邊信也 在シドニー日本国総領事館警備対策官

「豪州における治安状況ほか」

【NSW州の治安状況】

本日は、先日NSW州政府から発表された最新の犯罪統計を元にNSW州における治安情勢について紹介する。

BOSCAR: <https://www.bocsar.nsw.gov.au/>

Table 1.4: Recorded criminal incidents for major offences
Over the five years to March 2023

Offence category	12 months to March 2019	12 months to March 2020	12 months to March 2021	12 months to March 2022	12 months to March 2023	Trend and average annual percentage change	
						2 Year Trend	5 Year Trend
Murder	79	69	67	61	48	Stable	Down 11.7%
Domestic violence related assault	30,244	31,630	32,161	32,329	34,017	Up 5.2%	Up 3.0%
Non-domestic violence related assault	31,618	32,027	29,355	28,060	31,707	Up 13.0%	Stable
Sexual assault	6,002	6,524	7,460	7,202	7,809	Stable	Up 6.8%
Sexual touching, sexual act and other sexual offences	8,147	8,031	8,097	7,185	7,465	Stable	Stable
Robbery	2,540	2,470	1,971	1,712	1,883	Stable	Down 7.2%
Break and enter dwelling	26,081	25,295	18,465	17,446	18,938	Up 8.6%	Down 7.7%
Break and enter non-dwelling	10,103	9,955	6,739	7,252	7,534	Stable	Down 7.1%
Motor vehicle theft	13,273	13,383	11,221	10,586	12,836	Up 21.3%	Stable
Steal from motor vehicle	37,680	37,684	26,733	27,465	27,387	Stable	Down 7.7%
Steal from retail store	25,401	26,580	18,974	17,588	24,207	Up 37.6%	Down 1.2%
Other stealing offences	50,335	49,789	36,537	34,948	36,124	Stable	Down 8.0%
Malicious damage to property	58,152	56,176	52,719	48,395	48,889	Stable	Down 4.2%

上記のデータは主要13罪種※1

中期(5年)で見ると、DV、性犯罪が増加しているが、この2罪種はコロナ禍において他の罪種が軒並み減少する中においても、一貫して増加を続けている。これまで何度も言及しているが、豪州で最も深刻な問題であると言える。

短期(2年)では、5種の犯罪において増加が認められる(暴行・傷害(DV 関連): 5.2%、暴行・傷害(DV 以外): 13%、住居侵入: 8.0%、窃盗(乗物盗): 21.3%、窃盗(店舗対象): 37.6%)。これらの罪種についてはコロナ禍で大きく減少し、社会・経済活動が再開されてからもしばらくは減少または安定傾向にあったものの、ここに来て増加の兆しを見せていると受け止められる。

※1 殺人、暴行・傷害(DV 関連)、暴行・傷害(DV 以外)、強姦、強制わいせつ、強盗、住居侵入、建造物侵入、窃盗(乗物盗)、窃盗(車上狙い)、窃盗(店舗対象)、窃盗(その他)、器物損壊の13罪種

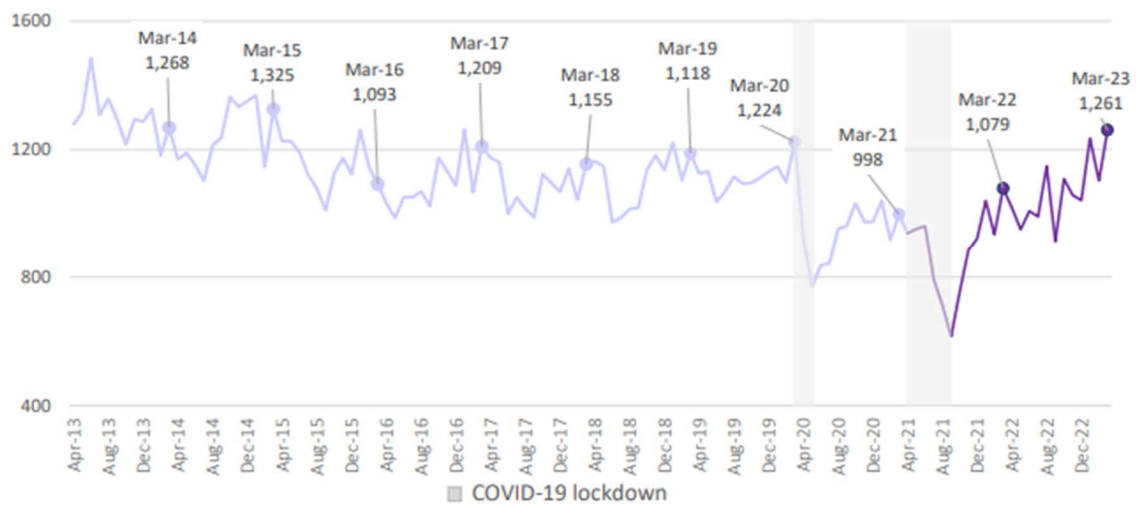
なお、主要13罪種以外では、薬物犯罪に変化があり、覚醒剤の密輸が大きく減少する一方で、パーティドラッグと呼ばれている MDMA、通称エクスタシーの所持、使用が実に約75%も上昇した。

エクスタシーは、特に若い世代への浸透が懸念されている薬物である。元々は米軍による心理作戦の実験に使用された向精神薬であったようだが、現在ではあくまで市場用語と呼ばれているのみで、実際には非常に様々な種類の物質が混合されているなど深刻な健康被害が懸念される薬物の一つとなっている。

学校の中でさえも取引されていると言われ、多くの中高生が使用しているとも言われているが、コロナ禍が明け、社会・経済活動の活発化に伴って急激に増加していることが考えられる。豪州では日本と比較して薬物に対する罪の意識が低い傾向が認められる。子供が軽い気持ちで薬物に手を出さないよう、家庭での教育・対話が非常に重要となってくる。

その他、自動車盗が急激なペースで増加し、2023年3月中の発生件数が過去6年間で最多を記録した。

Figure 1. Recorded incidents of motor vehicle theft in NSW, April 2013 to March 2023



被害の主な特徴としては被害全体の約70%が正規の鍵で被害、また約半数は私道、カーポート、ガレージなどの自宅から持ち去られている。

このほか、被害に遭った車両の約77%が一時的な交通手段として、あるいは別の犯罪に使用するなど、地下での流通を目的としない短絡的な目的で盗まれている。

ちなみに、手口で見ても犯人がこっそり家に忍び込んで車の鍵を持ち去り、これを使って車を盗むといったことが横行しているようである。

地域で見ると特に発生の増加傾向が顕著なのが州中北部、また極西部その他となっている。郊外では車の鍵を車内に置きっ放しにする人が多いようであるが、シドニー周辺部でも一定数の被害は発生している。古くからの住宅街では未だに防犯に対して無頓着な方もいると聞く。犯人もそのような事情を承知の上で「やりやすい」場所を選定していることから、自身の車の管理を徹底することはもちろん、古くからの住宅地にお住まいの方は、物色する犯人と鉢合わせする可能性もあるという認識を持つことも必要。

なお、参考まで犯人の年代、性別に関しては圧倒的に男性が多く、また NSW 州全体で見ると少年と大人が共に 40%超となっており、シドニー周辺に限って言えば少年が約 30 パーセント、大人が約 60%となっている。これほどまでに少年が自動車盗に参与しているのは深刻な状況と言えるが、短絡的な犯行が多く発生していることとの整合性も理解できる。

Figure 4. Age and gender of persons of interest proceeded against for motor vehicle theft by region - April 22 to March 23



先日、クイーンズランドで運転中、当て逃げ被害を受けた邦人女性が犯人の車両を追跡したところ返り討ちに遭い、その後犯人らが女性の車に乗り換えて逃げ去るという事件が発生した。

犯人は既に逮捕されているが、こういった場当たりの犯行は、たとえばスーパーやガソリンスタンドなど、私達が車で立ち寄った場所で起きても不思議ではない。やはり、普段から警戒心を持って行動することが肝要であろう。

【最近の邦人被害・トラブル】

・ 不動産賃貸にまつわるトラブルや被害

最近多いと感じるのは、豪州で2件目、3件目の物件を探すにあたり SNS で紹介している物件を契約しようと保証金を支払ったところ、大家と連絡が取れなくなったというもの。

このほか、渡航前に目星を付けた大家から「物件を押さえるには手付金を」となどと物件を実際に確認せずにお金を振り込んだものの、その後は大家と連絡が取れなくなったというものもあった。

関係各位の地道な注意喚起といった取組で多くの被害は防げているものと考えて

はいるが、なかなか無くならないのが実情である。今後も各位の協力を得ながら注意喚起を続けていきたい。

- ・ **クレジットカードの不正利用、銀行口座からの不正アクセス**

まずは豪州の銀行口座の不正利用にあった事案。

被害に気付いたのは銀行からの電話連絡であった。銀行側の説明としてはキャッシュカードのクレジット機能を使用した食事や航空券の購入があったものの、取引状況から不正使用が疑われるため確認のため連絡をしたとのこと。

被害者は当該取引に見覚えがない旨を電話口で伝えたが、あいにく金曜日の夕方であったこともあり、とりあえずその日はオンラインバンキングにアクセスをせず、週明けに直接銀行に足を運んで口座凍結手続を行うことを銀行に提案され、これを了承。

ところが、その数日後に銀行を訪問した際には口座からほぼ全額が無くなっていたとのこと。なお、それまでの間に複数の身に覚えの無いショッピングやタクシー利用、また送金等が行われていた模様である。

本件については未だ手口等の詳細が判明しておらず、オンラインバンキングへの不正アクセス、また銀行カード情報の窃取(スキミング等)なども考えられる。

次はキャッシュカードによる不正引き出しである。

こちらは金額こそ高額ではないものの、身に覚えの無いアップルをレットに3万円、またオパールカードへの120ドルの送金の被害に遭ったもの。こちらについては銀行が即座にカードを凍結したため更なる被害の発生を防ぐことが出来たようである。

サイバー犯罪を巡っては、政府発表によると被害額は増加の一途であり、またこれまで金銭被害には必ずしも結びついてこなかったフィッシング詐欺が金銭被害に繋がるケースも急激に増えているとのことである。

口座利用の記録は適宜チェックし、身に覚えの無い利用等を認知した際には直ちに銀行に相談する等の措置をとって欲しい。

・ タクシー利用にまつわるトラブル

最近、いわゆるタクシー料金の「ぼったくり」に関する相談が増えてきていると感じている。特に観光目的で来豪した方が、空港からタクシーを利用した際に近距離にもかかわらず高額な金額を請求されたというもの。

相談の幾つかは、当館からの助言に基づきタクシー会社にクレームを申し立て、差額の返金を受けられたと聞いている。

空港やタクシーベイからタクシーを利用する場合には、先頭で待っている車に乗らざるを得ない場合もある。こうした被害を防ぐためにはタクシーのナンバーやドライバーのIDを控えておく、レシートをとっておくと後の請求の際に役立つ。

なお、レシートを受領した際には正しい記載(乗車時間や降車時間、レシート番号等)がされているかについても確認することを奨励している。

【その他】

先日、ボンダイジャンクションで発砲事件が発生したことを受けて領事メールを送信した。認知当初は被害者の有無や犯人の状況も報道されず、事件の背景や犯行目的が不明であったが、現在では犯罪組織の対立抗争が背景にあったことが判明している。

日本と同様に拳銃の所持が厳しく制限されている豪州ではあるが、実は拳銃を含む凶器等の不法所持の検挙数を人口10万人あたりの数値で比較すると実に100倍ほど豪州での摘発が多く、また、拳銃を使用した殺人事件の発生件数も実に約9倍にも上る。

銃規制が厳しいからといえ、必ずしも日本ほど拳銃の脅威が低い訳でもないということを認識し、日頃の安全対策に活かす必要がある。

次に、こちらも先日、ファームでの性被害に関する注意喚起及び性被害に遭った場合の対処要領等に関する領事メールを発出したが、思いの外反響が大きく驚いたところ。

この種被害はなかなか通報に結びつかず潜在化しやすいところ、匿名で通報、相

談、また支援の依頼ができるということを知って貰ったことは大変意義があったものと考えている。

しかし当地警察では、とかく「日本人は犯罪とは縁が無い」と言われがちである現状であるものと認識しているため、警察の認識と実態、特に性被害の実態に乖離がないよう、当館では可能な限り正確に実態を把握して警察の理解を得るための働きかけを進めていきたいと考えている。

以 上